

科目名	ビオトープ I 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐藤 充
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	北里大学水産学部卒業 (株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表						
授業の学習 内容	現在の動物園・水族館は、自然環境保全の考えからビオトープの作成や野生動物生息地の保護保全活動にも力を入れています。そのことから、ビオトープが野生動物にとってどのような役割を果たしているのか理解することは重要です。 ※学校の行事等により見学の日程や授業の日程の変更がある場合があります。						
到達目標	ビオトープの役割が理解できるようになる。 簡単なビオトープを作ることが出来る。 トープの仕組みを説明できる。						
評価方法と基準	小試験20% 定期試験80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解する。 動物園・水族館における自然の保護・保全活動が正しく理解できる	今後行っていく授業の説明と個人目標の策定。画像や映像を使用し実際に施行されているビオトープを理解する 画像や映像を使用し、具体的な保護・保全活動
2	講義	ビオトープとは何か説明できる	ビオトープの基礎を説明していく
3	講義	葛西臨海公園内の鳥類園見学	ビオトープの役割をより深く理解する
4	講義・演習		
5	講義・演習	ビオトープの役割を説明(プレゼンテーション)	見学によって気付いたビオトープの役割を説明する。
6	講義	ビオトープのデザインをすることが出来る。	各目で作れるビオトープをデザインしていく。
7	講義・演習	簡単なビオトープの作成ができる	実際にビオトープを作成・実践する。
8			
9	講義	ブナ林見学の事前学習	見学前の注意点と装備の説明
10	演習	天城ブナ林の生物見学	山のビオトープを実際に見学し、どのような生物と生態系が形成されているかを説明できる
11			
12			
13	講義	前期まとめ 前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。	試験範囲からの予習と対策
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	
15	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、ビオトープの基礎を再確認する	試験の復習
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】			
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。			

科目名	畜産飼養 I 1	必修 選択	必修・選択等	年次	1	担当教員	工藤悟
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	(株)マザー牧場勤務、日本大学動物資源科学科 特別講師、PlanningOvis代表						
授業の学習 内容	畜産学、家畜、飼料そして畜産物の入門的理解に重点を置き、動物を扱う現場には、様々な分野の知識が必要であり、各々が独立しているものではなく、密接に関わり合い業務が遂行される事を理解させ、興味を持たせる。また、即戦力として必要な知識を解説する。						
到達目標	畜産学の基礎を正しく理解できる。 家畜が日常生活の衣・食・住を支えている事を理解できる。 即戦力として役立つ知識を理解できる。						
評価方法と基準	定期試験 100% 試験評価:S-Fの基準(S 100~90、A 89~80、B 79~70、C 69~60、F 59~0)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期講義内容の説明。畜産と生活との関わり、畜産の必要性、現状について理解できる。	時間外学習について： 講義中に使用した教科書、配布したプリント。そして、口頭、板書を書き留めたノートの熟読を行い復習すること。また、理解できなかった内容についての質問を整理し次回の講義に備える。  準備学習について： 毎回、講義終盤に次回の講義内容の予告を行いますので、教科書の該当箇所を熟読すること。
2		講義	日本における代表的な家畜(牛・豚・鶏)の品種を紹介すると共に利用目的について理解できる。	
3		講義	代表的な家畜(牛・豚・鶏)の骨格の構造。そして、特徴について理解できる。	
4		講義	代表的な家畜の消化器の構造と特徴。特に反芻動物の消化機能について理解できる。	
5		講義	代表的な家畜の生殖器の構造、性周期、妊娠、分娩について理解できる。	
6		講義	育種概念。選抜法、交配法の種類を紹介し、育種改良の重要性について理解できる。	
7		講義	飼料の消化・吸収について解説し、各種畜産物に変える一連の過程を理解できる。	
8		講義	飼料概念。飼料の一般成分、栄養価について理解できる。	
9		講義	飼料の分類、特に飼料の種類とその特徴について理解できる。	
10		講義	飼料の給与方法、特に代表的な家畜(牛・豚・鶏)に対する給与方法を理解できる。	
11		講義	飼料計算(基本):計算に必要な情報、単位など基本的な事を理解できる。	
12		講義	飼料計算(応用1):複雑な計算方法を理解できる。	
13		講義	飼料計算(応用2):特殊な計算方法を理解できる。	
14		試験	筆記試験	
15		講義	試験の解説を通して、前期のポイントを整理し理解できる。	前期講義の要点の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 家畜飼育の基礎 並河澄 他5名共著(農文協)/配布する講義用プリント。				

科目名	飼育概論 I 1	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	1	担当教員 栗原 七保子
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1	
教員の略歴	日本動物植物専門学校卒、(株)よみうりランド、財団法人横浜市緑の協会勤務					
授業の学習 内容	「動物園」という様々な立場の人が働く現場を偶像として見るのではなく、日本の動物園が歩んできた歴史や現代社会において果たすべき役割を具体的に理解していきます。また、日々野生動物に接している飼育員の取り組みや心構えを知ることによって、「動物を飼育する」ことの意味と意義をしっかりと理解し、実践していくための大切なファーストステップになります。					
到達目標	動物園の存在意義、現在抱えている課題を知り、理解することを通して、「動物の命を預かる」ことの意味を身近に理解することを到達目標とします。					
評価方法と基準	小試験 20% 定期試験 80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 D59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応します。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とします。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	この授業を受講する際の心構えを、学生目々が明確に示すことが出来る	日本の動物園、水族館の数を調べる
2		講義	日本の動物園が辿ってきた歴史について説明することが出来る	4つの役割について、ハンドブックを読んでおく
3		講義	現代動物園が掲げる4つの役割について説明することが出来る	4つの役割について、具体的などんなことが挙げられるか予想しておく
4		講義	現代動物園が掲げる4つの役割について説明することが出来る	これから必要になる取り組みは何か、自分の考えをまとめる
5		講義	野生動物に与える飼料について、その重要性を理解出来る	食性毎に野生動物をグループ分けしておく
6		講義	野生動物に与える飼料について、その重要性を理解出来る	食性毎の体のつくりを調べておく
7		講義	野生動物をより自然に見せるための展示の上夫を知ることが出来る	動物園の展示手法に対して、自分のイメージをまとめておく
8		講義	環境エンリッチメントについて、導入の経緯を説明出来る	動物福祉の概念についてについて調べておく
9		講義	環境エンリッチメントについて、具体的な取り組みを理解出来る	環境エンリッチメントの概念について調べておく
10		講義	環境エンリッチメントについて、具体的な取り組みを説明出来る	環境エンリッチメントの取り組みを具体的にイメージし、動物園で見つけることが出来る
11		講義	多摩動物公園ガイドランス(仮)	特に興味を持てる動物種を何種か挙げておく
12		見学実習	多摩動物公園見学実習(仮、2コマ分)	事前配布のワークシートに目を通しておく
13		休講	見学実習分休講	メール配信にて試験範囲確認
14		試験	前期まとめ試験	
15		振り返り	前期授業、試験内容振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
新・飼育ハンドブック、クマガが肥満で悩んでいます				

科目名	クワフワーク I 1	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	櫻井俊介
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	実習	総時間 (単位)	15 1	開講時期	後期
教員の略歴	本校卒業→動物園勤務→建築業勤務→爬虫類ケージメーカー立ち上げ						
授業の学習 内容	動物・自然関係の仕事は職場や業務の場所で工具などを使う場面が少なくない。この授業では実際に電動ドリルや電動ノコギリを使って工作活動をする。木工を中心に様々な材料や工法を全員一人一人がしっかり行っていく。						
到達目標	電動ドリル、ドライバーを中心に基本的な工具の使い方を覚え、将来職場で役に立つ技術を身に着けること。一人の力で授業を行う前は作れなかったものが作れるようになること。						
評価方法と基準	出席率、授業への取組む姿勢、掃除片付けはきちんと出来ているか						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義 & 実習	自己紹介、授業内容説明・確認	実技メインのため不要
2		講義 & 実習	ノコギリ、電動工具練習	—
3		講義 & 実習	基礎工作	—
4		講義 & 実習	基礎工作	—
5		講義 & 実習	基礎工作	—
6		講義 & 実習	レジンジオラマ製作	—
7		講義 & 実習	レジンジオラマ製作	—
8		講義 & 実習	応用工作	—
9		講義 & 実習	応用工作	—
10		講義 & 実習	応用工作	—
11		講義 & 実習	応用工作	—
12		講義 & 実習	応用工作	—
13		講義 & 実習	応用工作	—
14		講義 & 実習	応用工作	—
15		講義 & 実習	振り返り	—
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プール演習 I 1	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	原島大樹
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	東京スポーツレクリエーション専門学校卒、(株)日本潜水機、日本コムシス(株)、(株)アドバンス取締役、(株)トラックス代表取締役						
授業の学習 内容	ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 業は100%実技です。						準 授
到達目標	クロールと背泳の技術が出来るようになる。 技術と体力を養いクロールで200m泳ぐことが出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%(実技) クロールのタイムの測定。 泳力評価(25m) は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。						200m 背泳の 再試験

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1		講義・実技	学校外施設の利用方法の確認。 技術レベルによるコース分けを行う。		入学前オリエンテーションにおける3つの習慣の理解と個人目標の策定。持参品の確認。		
2		実技	前期の授業内容を説明し当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することが出来る。		自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。		
3		実技	水慣れと呼吸方法を理解する。				
4		実技	ストリームラインの重要性を理解する。				
5		実技	クロールキックが出来るようになる。				
6		実技	クロールのプルが出来るようになる。				
7		実技	クロールのキックとプルを合わせて泳ぐこと が出来る。				
8		実技	クロールで泳ぐスタミナをつけ、体力の向上 を図る。		技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を を確認し、更なる技術と体力の向上を目指 し、授業外でも練習する。		
9		実技	背泳でのストリームラインを理解する。				
10		実技	クロールのスタート出来るようになる。				
11		実技	背泳のキックが出来るようになる。				
12		実技	背泳のプルが出来るようになる。				
13		実技	背泳のキックとプルを合わせて泳ぐこと が出来る。				
14		実技	背泳で泳ぐスタミナをつけ、体力の向上 を図る。		夏季休暇中の個々の練習方法を確認する。		
15		試験	200mクロールタイム測定、背泳泳力評価		完泳を目指し、練習の中でタイムを確認して おくこと。		
準備学習 時間外学習			技術レベルによって授業外の練習を行う必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。				
【使用教科書・教材・参考書】							

科目名	繁殖生理学 I 2	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	高山清次
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	( )		
教員の略歴	麻布大学大学院博士課程修了(獣医学博士)						
授業の学習 内容	動物の繁殖のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はこの知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、繁殖生理学の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に平常点(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	繁殖生理学の概要を把握する。	講義範囲の予習・復習をする。
2		講義	繁殖生理学についてホルモンの種類を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
3		講義	繁殖生理学についてホルモンの作用を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
4		講義	雄の性成熟について理解することができる	講義範囲の予習・復習をする。
5		講義	雌の性成熟について理解することができる	講義範囲の予習・復習をする。
6		講義	性周期について、発情周期を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
7		講義	性周期について、各動物の発情周期を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
8		講義	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる①。	講義範囲の予習・復習をする。
9		講義	環境要因について生殖の内分泌に影響する要因を理解することができる②。	講義範囲の予習・復習をする。
10		講義	卵子と精子の受精現象を理解することができる	講義範囲の予習・復習をする。
11		講義	妊娠について、着床と出産を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
12		講義	人工授精のメカニズムについて理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
13		講義	人工授精について、各種動物への応用について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
14		試験	講義範囲の評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15		講義	評価試験返却・解説・まとめ	講義範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
学校の図書室にある繁殖生理学の本やインターネットを利用する。				

科目名	動物行動マネジメント II1	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	山本聡
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	ケフロ湾海洋哺乳類研究所およびハワイ大学海洋生物研究所研究員兼トレーナー、沖縄海洋研究所飼育顧問、あわしまリパーク飼育顧問、南知多ビーチャンド飼育・研究アドバイザー、海洋哺乳類エデュケーションセンター代表理事						
授業の学習 内容	水族館という施設を運営していくうえで、海洋哺乳類の存在は欠くことはできない。そうした海洋哺乳類の健康を守り、繁殖を成功させ、来園者を満足させることに直接かかわるのがトレーナーである。しかしトレーナーをひとつの集団にまとめあげ、施設としての目標と動物の福祉を達成するにはトレーナーたちをリードしていく立場にあるものが、トレーナーたちが日々、何に悩み、どんな苦勞をしているのか正しく認識している必要がある。また動物飼育の現場をトレーナーに任せるにあたって、個々のトレーナーが適切な飼育・トレーニングを行っているかを判断できなければいけない。本授業では上記のような事項を実現するために必要な海洋哺乳類の行動マネジメントに関する詳細な技術よりも、その考え方やトレーナーの動物への接し方、動物たちとの社会的絆を形成してゆくやめに必要不可欠な事項を理解することに重点を置く。						
到達目標	他人の意見や批判に耳を傾け、新しい知識を積極的吸収する態度を獲得する。海洋哺乳類を飼育するうえで、動物たちの健康を守り、繁殖を成功させ、福祉を達成するために、自分たちに何が必要かを考えられるようになる。必要と思われる事項は、それを実現させるために必要な、問題解決の考え方とあきらめず実行する態度を獲得する。不定率強化が有効である理由、＜消去、DRI・LRS、罰＞の混同など、動物の飼育業界で誤解されがちな事項について正しい知識を身に着ける。動物の飼育・行動マネジメントを実行するにあたって、人間中心主義的な考え方から脱却し、誤った擬人化をしない知識と態度を身に着ける。						
評価方法と基準	出席率・授業態度:20% 前期試験:80% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は欠点が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の受け方、ノートの作り方など	今年の自分の目標について考え、今年1年の生活・学習などの計画をたてる。
2		講義	レスポナント条件付けの理解の確認	まとめノートの作成
3		講義	ブリッジ刺激の特性と機能について	まとめノートの作成
4		講義	随伴性とは	まとめノートの作成
5		講義	強化と罰についての理解の確認	まとめノートの作成
6		講義	強化と罰:4つのポイント	まとめノートの作成
7		講義	A-B-C解析について	まとめノートの作成
8		講義	消去、消去抵抗、消去バースト	まとめノートの作成
9		講義	なぜ罰は使えないか、トレーナーの鏡としての動物	まとめノートの作成
10		講義	不定率強化についての理解の確認	まとめノートの作成
11		講義	率と割合、ランダム(無作為性)とは	まとめノートの作成
12		講義	ハズバンドリーについての理解の確認	まとめノートの作成
13		講義	ハズバンドリー行動の形成と脱感作	まとめノートの作成
14		前期試験		小グループで試験の準備学習を行う。
15		講義		自己の試験結果と解答解説をもとに、自己のまとめノートに加筆・修正などを行う。
準備学習 時間外学習			毎回の授業中にとったノートを基に、良く分からなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめノートを作成する。	
【使用教科書・教材・参考書】使用教科書は特になし。参考となるものは①“Animal Training”(著者)SeaWorld Parks & Entertainment( <a href="https://seaworld.org/animals/all-about/training/">https://seaworld.org/animals/all-about/training/</a> )、②“Zoomility”(著者)Grey Stafford(出版社)An iReinforce.com book.				



科目名	経営学Ⅱ1	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	野崎広治
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	不動産会社・金融コンサルタントを経て、独立。現在は、キャリア相談、採用コンサル、企業研修講師などの活動を行う						
授業の学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源「ヒト」「モノ」「カネ」の理解を深める。前期は「ヒト」、後期は「モノ」「カネ」を扱う</li> <li>・経営・マーケティング視点を醸成することで就職後、次世代リーダーとして長期的なキャリア形成の実現を目指す。</li> <li>・就職後、リーダー、店長など現場を統括するためのマネジメント力、リーダーシップ力、部下育成力の土台を作る。</li> <li>・後輩育成し、360度評価を行う。そのため、CSU、プレゼンテーションIなど一般教養と言われる授業科目については、既存の知識として持っていることを踏まえ授業を行う。特に後輩育成においてコミュニケーションの実践場面がある。しっかり復習しておくこと。</li> <li>・後期はマーケティングの実践を行、企画→実行を行う予定である。そのため、WEBマーケティングの授業における、WEBの基礎知識、マーケティングを学習していることを踏まえて授業を進める。</li> <li>・専攻初の授業となるため学生の状況などを踏まえ課題、授業内容など柔軟に対応していく。</li> </ul>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①会社の仕組みを知り、人マネジメントの仕組み、流れがわかる。</li> <li>②後輩育成のポイントを理解し、効果的な育成ができる。</li> </ul>						
評価方法及び基準	<p>緊急事態宣言・オンラインへ切り替わりなど、授業運営に大きな変更が生じた場合は変更する場合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①試験・・・50% 100点を1/2にする</li> <li>②授業態度(個人の取り組み・提出物・360度評価)・・・25%</li> <li>③授業態度(グループ・クラス全体への取り組み)・・・25%</li> </ul> <p>※①と③を踏まえ最終評価を出す。(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出遅れ・未提出について忌引き、事故病気による入院、指定感染症への感染、(課題提示時～提出までの間)、研修参加の場合は減点評価をしない。自己管理の徹底も取り組みの1つである。友人と情報共有を行い、また体調不良になる可能性も含め、早めに取り組むこと。</li> <li>・提出物を提出しても基準に満たないものは未提出と同等の評価とする。</li> <li>・試験の点数が高く、静かに授業を聞けば良い成績になるというものではない。個人の成長、成長への取り組み、クラスへの貢献が見られなければF判定となる可能性が高い。プロセスを評価するため社会人を意識して主体的に取り組むことを期待する。</li> <li>・詳細は授業第一回目で説明する。</li> </ul>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	本授業の進め方や概要を理解する・経営学を学ぶことの意味を理解する	適宜提示
2		講義・演習	【会議ファシリテーション】	課題：会議ファシリテーションの練習
3		講義・演習	会議の進行の方法を理解し、実践を通じて会議運営ができるようになる	課題：会議ファシリテーションの練習 課題：会議報告書の作成・提出
4		講義・演習	ゲースタディを通じてG-PDCAを理解し、日常で活用できるようになる	適宜提示
5		講義・演習	【後輩育成と動機付け】	事前学習：DISC理論 課題：後輩育成(13回まで)
6		講義・演習	のポイントを実践形式で身につける	適宜提示
7		講義・演習	*DISC理論を活用するため復習しておくこと。復習の時間は取らない。	適宜提示
8		講義・演習	【QCDS・WBS・ガントチャート・生産性向上】	課題：会議を実施し、方向性の確定 課題：会議報告書の作成・提出(担任印)
9		講義・演習	QCDSの理解と飼育当番の質を高めるマニュアル作成する。マニュアル作成とともに、プロジェクトの進捗管理を行う、WBS・ガント	課題：飼育マニュアルの作成
10		講義・演習		事前課題：飼育マニュアルの作成
11		講義・演習	【チームマネジメント・リーダーシップ・フォローシップ】自分自身だけでなく、チーム	課題：360度評価の実施
12		講義・演習	全体のパフォーマンスを高める方法を知る	適宜提示
13		講義・演習	前期の振り返りと自身の課題抽出ができる	360度評価の結果をもとに、自己の強み、課題を見つけ、今後の改善アクションにつな
14		試験	試験実施(60分)	
15		講義・演習	前期の振り返りを行い、学びの言語化、後期への向けた行動を明確にし成長につなげる	
準備学習 時間外学習			授業前課題・授業後の課題などあり。適宜提示	
【使用教科書・教材・参考書】				
講師作成資料 Teams ※PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は許可した場合のみ使用可能				



科目名	応用行動分析学	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	3	担当教員	落合知美
学科・コース	エココミュニケーション科3年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	農学修士、大学勤務(京都大学霊長類研究所、東京大学農学研究科、武庫川女子大学)、NPO法人市民ZOOネットワーク理事						
授業の学習 内容	動物のためによりよい飼育管理をおこなうには、動物の行動を科学的に捉え、動物がなぜそのような行動をおこなうのかを理解し、環境や行動を変化させてより好ましい状態を作る手法が有効である。こうした手法は、動物の飼育管理を簡単にするだけでなく、動物自身のストレスの減少や生活の質(QOL)向上にも役立つ。 本講義では、動物園での行動管理について知るとともに、行動分析学の基礎を学び、それを応用させて行動を望ましいものにシェイピングする方法について実習をおこない、実践的に学んでいく。 授業はZOOMでおこない、毎回、授業時間中にレポートを完成させ、提出してもらいます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育動物の望ましくない行動と行動管理について理解する</li> <li>・行動を科学的にとらえ、測定・評価する方法について学ぶ</li> <li>・行動分析学の基礎について学び、応用行動分析学について知る</li> <li>・強化の原理について正しく理解する</li> <li>・シェイピングの手法について実践的に学ぶ</li> <li>・自分の意見や感想を記述する練習をする</li> </ul>						
評価方法と基準	授業ごとのレポート 50% 期末テスト 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イントロダクション：教員の紹介と前期の授業内容、講義の進め方について	動物園動物の行動理解について確認
2		講義	動物園での行動の管理：収容と放飼、給餌、健康管理、繁殖制限など	飼育動物の問題行動を知る
3		講義	動物の望ましくない行動：柵なめ行動、ペーシング、糞食、過度のケンカなど	
4		講義	動物園での行動管理の歴史：優位性の利用と即賞即罰	
5		講義	動物園の動物の行動を分析する：行動レポートリーとその時間配分について	
6		講義	心理学の様々な分野と行動分析学について：心理学の歴史を中心に	行動の原理について興味を持つ
7		講義	行動分析学の歴史と発展：スキナー箱、オペラント条件付け、ヒトへの応用	
8		講義	強化とは何か：強化の種類と量、そのタイミングについて理解する	
9		講義	シェイピングとは何か：行動を細分化し、段階的に行動を完成させる	応用行動分析学 (ABA) を理解する
10		講義・実習	シェイピングを体験する：相手に希望の行動をしてもらおう (クリッカーのタイミング)	
11		講義	日常生活での強化の原理：ポジティブとネガティブについて正しく理解する	
12		講義・実習	シェイピングを体験する：相手に希望の行動をもらおう (行動の細分化と強化)	
13		講義	「復習」動物園で観察される行動の問題と、動物行動分析学の歴史と利用	今までの講義の疑問点を明らかにしておく
14		講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15		講義	テスト結果からの振り返り	試験範囲からの復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 動物園動物管理学(2014)村田浩一、楠田哲士監訳				